

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール」
- 2 ね ら い これからボランティア活動をはじめの方々を対象に、ボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動に向けた期待と意欲を高めるとともに、必要な基礎知識や技能を習得させる。
- 3 期 日 令和6年5月11日（土）、18日（土）19日（日） 3日間
- 4 場 所 11日：沖縄県立糸満青少年の家 18日、19日：国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 40名程度
- 6 参加人数 34名
- 7 参加者内訳 高校生13名 大学生20名 社会人1名
- 8 講 師 張本 文昭 氏(沖縄県立芸術大学全学教育センター 教授)  
木島 悠太郎 氏(一般社団法人 沖縄ライフセービング協会)  
山里 望 氏(国立沖縄青少年交流の家 所長)  
澤岬 南々帆 氏、小泉 陽和 氏(法人ボランティア)  
村島 雄太(国立沖縄青少年交流の家 企画指導専門職)

9 実施プログラム

5月11日	潮汐:中潮 満潮8:17(208cm) 干潮15:11(7cm)										
	12:00 13:00 14:40 17:40										
			受付	開校式	講義①		講義②			事務連絡後解散	
5月18日	潮汐:若潮 満潮16:11(150cm) 干潮10:21(86cm)										
	10:00 11:45 13:00 14:00 16:00 18:00 19:30 21:00										
	9:00から乗船開始 (とまりんターミナル)	フェリー	移動	弁当 着替え	テント設営	海洋研修	シャワー	野外炊事	夕食・片付	交流会	就寝準備
5月19日	潮汐:中潮 満潮17:00(159cm) 干潮10:57(69cm)										
	7:30 8:30 11:30 12:30 14:00 15:00 16:00										
	起床 テント底上げ	朝食 テント撤収	講義・演習③	弁当	講義④	講義⑤	閉校式 移動	フェリー	【講義内容】 講義① 青少年教育 講義② 青少年教育施設におけるボランティア活動 講義③ 安全管理 講義④ ボランティア活動の意義 講義⑤ 青少年教育施設の現状と運営		

10 事業の様子



青少年教育



テント設営



野外炊事



交流会



火起こしチャレンジ



スモア作り



安全管理



参加者代表挨拶



修了書授与

## 11 参加者の声（アンケートより）

- ・自分達で考えてやるが多かったので、周りを気にしながら協力して行動することができた。
- ・あまり経験することがないテント泊を経験出来て良かった。
- ・座学だけでなく屋外での観察を通して見たり、触れたりできて楽しかった。（青少年教育）
- ・スノーケルが初めてだったけど楽しかった。もっと沖縄の自然を感じたい。（ボランティアの技術）
- ・先輩の体験を聞くことでボランティアへの関心が高まった。（青少年教育施設におけるボランティア）
- ・思っていたよりおぼれていることに気づきづらくて衝撃的でした。（安全管理）
- ・グループで子どもへの対応を考えることで視野を広げることができた。（ボランティアの意義）
- ・沖縄の特性を活かした施設だと思った。現状を知って意欲が高まった。（青少年教育施設の現状と課題）

## 12 担当者所見

### （1）成果

- ・昨年、一昨年と比較して大学生の参加が増えてきた。今後のボランティア活動の活性化につなげたい。
- ・3日間の開催とすることで、カリキュラムに余裕ができ、ボランティア同士や職員との交流の時間を生み出すことができた。先輩ボランティア進行による交流会を通して親睦を深めることができた。
- ・先輩ボランティアがボランティアスタッフとして参加していたため、参加者がボランティアの活動内容や役割をイメージしやすかったように感じた。
- ・意欲的な参加者が多く、今後の活躍につなげていきたい。

### （2）課題

- ・3日間開催としたことで日程の調整が出来ずに参加を見送る様子も見られた。
- ・事業の支援、サポートだけでなく、運営に関わる場面を設定し、経験を積ませたい。
- ・事業への参加だけでなく、草刈り作業等に協力を依頼する機会を計画したい。
- ・ボランティアの予算が限られているため、活性化を図るには予算を確保する必要がある。